

〔神皇正統記後白河〕天下を治め給ふ事三年、太子〇二にゆづりて、例のごとく尊號ありて、院中にて天下を去らせ給ふ事三十餘年、其間に御出家ありしかば、政務はかはらず白河鳥羽兩代の如し、されどもうち續き亂世に合せ給ひしこそあさましけれ、

〔愚管抄五〕保元三年八月十一日におりさせ給ひて、〇後東宮二條院に御讓位ありて、太上天皇にて、白河鳥羽の定にて世を去らせ給ふ、〇中大方此二人〇藤原經宗して、世をば院に去らせ參らせし、〇二の御さたにてあるべしと云けるをきこしめして、院は清盛を召て、我世にありなしは、此惟方經宗にてあり、是を思ふ程いまして、參らせよとて、なくく仰ありければ、〇中さてやがて經宗をば阿波國惟方をば長門國へ流してけり、

〔源平盛衰記三〕一院御出家事

高倉院踐祚ノ後ハ、無諍方一院〇後萬機之政ヲ聞召シカバ、院中ニ近ク召仕ル、公卿殿上人以下、北面ノ輩ニ至マデ、程々ニ隨フテ、官位俸祿、身ニ餘ル程蒙朝恩タレ共、人ノ心ノ習ナレバ、猶アキ足ズ覺テ、平家ノ一類ノミ、國モ官ヲモ多ク塞ギタル事ヲ目醒シク思テ、此人ノ亡タラバ、其レハアキナン、彼者ガ死タラバ、此官ハアキナメト心ノ中ニ思ケリ、〇中一院モ被思召ケルハ、〇中清盛カク心ノ儘ニ振舞コン然ルベカラ子、是モ末代ニ及テ王法ノ盡ヌルニヤ、逆モ由ナシト思召立セ給テ、一筋ニ後世ノ御勤思召立ト聞エシ程ニ、〇中嘉應元年己丑六月十七日、上皇法住寺殿ニシテ御出家アリ、〇中平家ノ振舞、中々御善知識トゾ思召ス、

〔百練抄八〕治承三年十一月十五日、世間嗷々、武士滿洛中、入道大相國〇平奉怨公家、率一族可下、向鎮西之由風聞上皇〇後以法印靜賢、自今以後、萬機不可有御口入之由、被仰遣之、

或記云、上皇與關白〇藤原可令滅平家黨類之由、有密謀之由、有其聞、其上師家卿超二位中將任、中納言其鬱云々、